

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

九州大学 文学部

前期日程

科目

国語(現代文)

総括	出題数	現代文 1題, 古文 2題, 漢文 1題		
	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

問題文の長さは3700字程度で昨年より900字程度減少した。設問形式は、抜出問題が1、記号選択問題が1、記述説明問題は4問であった。記述解答量は19行と昨年より減少した。問4で、昨年同様「本文の論旨を踏まえて」という設問条件があった。また、問6では、昨年の二の問五同様、「具体例を一つ挙げて」という設問条件があった。本文は昨年度に続き評論であり、ウェーバーの価値自由の概念を通じて、現代社会における政治的中立性について述べられた人文学系の文章である。

〈合格への学習対策〉

哲学・思想・倫理学、文化・文明論、言語論・文学論を含む芸術論、教育・学問論など、評論や硬めの随想を読みこなし、指示語の指示内容の把握、具体例と一般論の論理関係や文構造の正確な把握、対比関係の把握など、基本的な読解力の充実をはかることが肝要である。また、本文内容から適切な具体例を自分で示すという推論能力も必要となる。さらに、解答時間内での記述量の多さに耐えうる表現力を獲得する必要がある。そのためには、客観的な読解及び論理的な解答作成の手順に習熟するとともに、駿台文庫の青本「九州大学」を活用して、過去の本試験の問題を素材とした学習を行うことが有効である。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
一	評論	野口雅弘『中立とは何か マックス・ウェーバー「価値自由」から考える現代日本』	現代社会、特に現代の政治教育現場における政治的中立性について述べた文章。マックス・ウェーバーの価値自由について詳細に論じた上で、若者たちが、政治的な問題について、自分の意見を持って自分の態度を決定していくことが困難になっている現代の教育現場における問題を論じている。	標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
一	問1	抜き出し	現代の時代の精神について述べた部分の具体例を述べている箇所を抜き出す。「対立の契機」「丁寧に切り除かれてきた」との対応に注目すればよかった。	やや易
	問2	記号選択	空欄に入る引用文を選ぶ。空欄部直前の「価値の対立にこだわるマックス・ウェーバー」と直後の「残念な存在に映るかもしれない」を根拠に考える。	やや易
	問3	記述	理由説明。傍線部に続く段落の内容をまとめればよい。慣用表現「殺し文句」は言い換えておきたい。 (解答枠 16.8センチ×4行)	やや易

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

問4	記述	本文全体の論旨を踏まえた内容説明。21 段落「このようなウェーバーの価値自由」の指示内容を中心に、12・14 段落の「価値自由」について述べた内容を加えながらまとめればよい。 (解答枠 16.8 センチ×6 行)	標準
問5	記述	理由説明。文末表現「～こと」の並列に注意したうえで、17 段落の「プロセス」について述べた部分を中心に、16 段落の「政治教育」について述べた部分の表現を利用してまとめればよい。 (解答枠 16.8 センチ×4 行)	標準
問6	記述	本文で言及された以外の具体例を一つ挙げる内容説明。「党派性」について、11・14 段落の内容を整理した上で、傍線部が「現代の政治教育」について述べていることを踏まえて、18 段落を援用しながらまとめればよい。「うまく扱えない『党派性』とは何か」という問いかたに注意する必要があった。 (解答枠 16.8 センチ×5 行)	やや難

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階（難・やや難・標準・やや易・易）で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

九州大学 文学部

前期日程

科目

国語(古文)

総括

出題数	現代文 1 題, 古文 2 題, 漢文 1 題		
難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

二(共通問題)の『訳文童謡』は820字程度で、昨年よりやや増加した。例年、現代語訳・内容説明に加え、文学史が出題されていたが、今年度は文学史は出題されなかった。

三(文学部単独問題)の『別本八重葎』は1,200字程度で、昨年度よりやや増加した。設問は例年通り現代語訳と説明問題が主体で、その他の問いとしては、今年度は引き歌を踏まえての説明が出題された。

＜合格への学習対策＞

共通テストレベルの読解力をつけるとともに、いろいろなジャンルの文章を読み慣れておく必要がある。基本的な文法・敬語の知識は確実にしておくこと。和歌の修辞技法や和歌解釈に関する対策も怠らないようにしよう。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
二	語学書	『訳文童謡』(伴蒿蹊)	入試問題には珍しい出典である。	標準
三	擬古物語	『別本八重葎』(未詳)	比較的読みやすい文章であった。	標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
二	問1	記述	現代語訳。	標準
	問2	記述	文法。	やや易
	問3	記述	内容説明。	標準
	問4	記述	理由説明。次段落に着目。	標準
	問5	記述	内容説明と理由説明。	標準
三	問1	記述	現代語訳。	標準
	問2	記述	引き歌を踏まえての内容説明。引かれている和歌の内容を正確に解釈する。	標準
	問3	記述	理由説明。傍線部の後の阿闍梨の発言に即して考える。	標準
	問4	記述	理由説明。傍線部が恐怖を表していることに言及する。	標準
	問5	記述	内容説明。「本文に即して」とあるのに注意。	標準

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

九州大学 文学部

前期日程

科目	国語(漢文)
----	--------

総括	出題数	現代文 1 題, 古文 2 題, 漢文 1 題		
	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少
〈総論〉 昨年度は『三国志』（52 字）とその注（161 字）から出題され、総字数 213 字・設問数 7 問であった。本年度は『蜷洲餘珠』から出題され、総字数 237 字・設問数 7 問であった。本年度は枝問がなくなり、実質設問数は 1 問減少した。 〈特記事項・トピックス〉 昨年度までと異なり、本年度は 1 つの文章で出題された。 本年度は文化史が出題されなかった。また、本年度は返り点を付ける設問が出題されなかった。 〈合格への学習対策〉 ・頻出句形を十分にマスターしておくこと。 ・説明問題に対処するため、読解力・表現力を身につけておくこと。 ・中国思想史・文学史に習熟しておくこと。 ・過去問を通して、様々な設問形式に対応できるようにしておくこと。				

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
四	説話	『蜷洲餘珠』（寺崎蜷洲）	出題頻度は極めて稀。	やや易

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
四	問 1	記述	現代語訳（わかりやすく）。返り点・送り仮名付き。	易
	問 2	記述	理由説明（誰がなぜ、主語を明らかにしてわかりやすく）。	標準
	問 3	記述	理由説明。60 字以内。	標準
	問 4	記述	書き下し（漢字仮名交じり、現代仮名づかいでもよい）。返り点付き。	標準
	問 5	記述	書き下し（漢字仮名交じり、現代仮名づかいでもよい）。返り点付き。	標準
	問 6	記述	内容説明（わかりやすく）。	標準
	問 7	記述	語の読み（すべてひらがなで、現代仮名づかいでもよい）。4 問。	標準

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を 5 段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。